

ると、もう時効だと思われたのでしょうか、中学時代の職員会議での私をめぐる議論とか、同僚教師の戦時中の言動とか、勤労働員の話とか、私達には判らなかったいろいろな話を控え目ながら話して下さいました。過去のことをよく記憶している方だなあと感心したものでした。

#### 最 後 に

結局、私は先生の頻繁な採集旅行や冒険にお伴したことはありませんでしたが、峰越え林道、津川の赤崎山へ御一緒させていただいた2回だけでした。風呂敷と新聞紙を持

たれて、ゆっくりとあちこち観察して採集される様子を、非常に感銘深く思い出しております。暗くなっても平気で採集に没頭されており、視界が利かなくなってから、大急ぎで山を降りるなど、景色を眺めての常人の登山とは違った態度を覚えております。

最後に、御子息純一さんが、通夜の席だったかに話された言葉に、“父は自然を神として信仰しており、観察、研究に没頭していました”とありましたが、私もそれと同感ですし、私の理想でもありました。

いつまでも教導いただきたかった、尊敬する教師でした。

## 池 上 先 生 と の 採 集

川 端 義 一

縁あって福島県只見町の植物調査に一員として参加させてもらいました。池上先生も調査員に加わっておられ、何回か只見に同行させていただきました。その折りの話です。

1997年6月28日、朝、先生のお宅に伺い、先生に車で只見までご一緒いただきました。六十里越経由で、集合の約束の時刻があったので途中止まることなく集合場所まで走行しました。この時、先生は途中興味を引かれた所もおありだったのに採集できなかったことを残念に思っておられたのでしょうか、後日、じねんじょの総会の折りに、最近はずでさっと通り過ぎて周りの植物を見たり採集したりしない、というような話をされ、身の縮む思いで聞いたことがありました。その日は只見で何カ所か採集やら調査やらをし、只見に泊まりました。

先生は当時、一度に多くを召し上がれないので少しずつ時間をかけて食事をされていました。翌29日の朝も同様で、我々も傍らで話を伺っていましたが、結局、食事を終えられる頃には昼になっていました。その後、新潟へ帰ることになり、また同乗していただきました。

途中田子倉湖の一方所で、どちらが言い出したのかさだかではありませんが（たぶん先生が止まれとおっしゃるこ

とはなかったと思いますから、私が言い出したのでしょう）、車を止めて採集をしました。

斜面に送電鉄塔保守用の道がつけてあり、階段がつくってありました。先生は下で採集を始められたのですが、いつも通り遅々として前進されません。先生の体調を考えると先生は登られずに下で採集されるものと勝手に考え、私は保守用の道を登って、斜面や尾根の林を調べていました。調査を終えて下っていくと先生はまだ下で採集をされておられました。下の林や別の斜面の林を調べ、しばらくして、先生がおられた所へもどってみると、先生は山道を登っておられるではありませんか。心配なこともあり、再び先生と共に登り始めました。結局、先生は途中で引き返されることもなく、ゆっくりながら、尾根まで登られました。

さすがに下りてきた時にはあたりは暗くなっており、先生を促して帰路につきました。新潟のお宅に着いたときはずいぶん遅くなっており、奥様は穏やかに迎えてくださったのですが、内心ずいぶん心配されておられたと思います。大変恐縮しました。

この採集が先生との最後の採集になってしまいました。

## 池上先生の御指導に感謝して

小 林 巳 葵 彦

1968年3月23～24日に積雪数mの小千谷山本山でのじねんじょ会採集会が開かれた。24日に山頂から下山中の屋食場所で、「この雪の下にユキツバキがあり葉状苔がある」との池上先生の一声で、好奇心旺盛な若者が、3mほど掘り進むと蕾をつけ春を待っていたユキツバキが現われ、葉状苔が付着していた。池上先生には、雪の下まで見通す眼力が備わっているのだろうかと感嘆するが、その後の調

査やお話の中に、人間離れした？素晴らしい能力や発想力を感じるが多々あった。先生の話には、終わりが無く常に夢が広がり、いろいろな繋がりがネット状に展開する。そして気付いた時には先生の話にのせられているというか、しなければならぬ雰囲気になっていた。しかし結果として、時間が経過すると自分の能力不足を感じるが多かったが、先生の幅広く奥の深い知識に裏打ちされた